日本女子大学動物実験計画書【様式１】

日本女子大学長　殿

|  |
| --- |
| （□…選択・該当項目を■） |
| 提出年月日： | 年　　　月　　　日  | 受付年月日： | 年　　　月　　日  | 受付番号： |  |
| □ 新規　□ 継続 □ 変更 （前回承認番号：第　　　　　号） | 情報公開　：　□　全面開示　　　□　部分開示 |
| 実験課題 又は 授業科目名 |  |
| 研究領域区分 | □ 栄養学 　 □生物学　　 □心理学 　□医学 　 □その他 （　　　　　　　 　 ） |
| 実験区分 | □ 一般実験　 □ 学生実習　 　□ 技術開発・手技習得 　  |
| 動物実験責任者名 | フリガナ |  | 部局名・連絡先 | 職 | 動物実験の経験等 |
| 氏　名e-mail |  | TEL:  | □教授 □准教授□講師 □助教 | 経験年数：　　　　年教育訓練受講の□有□無 |
| @ |
| 動物実験実施者名記入欄が不足する場合は別表を添付 | 氏名［フリガナ］ | [ ] | TEL:  | □学部 □大学院□その他（ 　　　　　） | 経験年数：　　　　年教育訓練受講の□有□無 |
| e-mail  | @ |
| 氏名［フリガナ］ | [ ] | TEL:  | □学部 □大学院□その他（　　　　 　） | 経験年数：　　　　年教育訓練受講の□有□無 |
| e-mail | @ |
| 氏名［フリガナ］ | [ ] | TEL:  | □学部 □大学院□その他（　　　 　　） | 経験年数：　　　　年教育訓練受講の□有□無 |
| e-mail | @ |
| 氏名［フリガナ］ | [ ] | TEL:  | □学部 □大学院□その他（　　 　　　） | 経験年数：　　　　年教育訓練受講の□有□無 |
| e-mail | @ |
| 氏名［フリガナ］ | [ ] | TEL:  | □学部 □大学院□その他（　　　 　　） | 経験年数：　　　　年教育訓練受講の□有□無 |
| e-mail | @ |
| 氏名［フリガナ］ | [ ] | TEL:  | □学部 □大学院□その他（　　 　　　） | 経験年数：　　　　年教育訓練受講の□有□無 |
| e-mail | @ |
| 実験予定期間 | 20（ 　 ）年 月　　日～ 20（ 　 ）年 月　　　日 | 中止・終了等 |  20（ ）年 月 日 |
| 飼養保管施設及び実験室 | 飼養保管施設 |  | 実験室 |  |
| 使　用　動　物記入欄が不足する場合は別表を添付 | 動 物 種 | 系　統 | 性別 | 使用予定頭数 | 微生物学的品質 | 入手方法（入手先や導入機関名） |
| □ラット　□マウス□その他（　　　　） | □野生型　□自然発症□組換え体 | □♂□♀ |  | □SPF　□クリーン　□コンベンショナル | □購入（　　　　　　　　　　）□譲渡（　　　　　　　　　　）□その他（　　　　　　　　　） |
| □ラット　□マウス□その他（　　　　） | □野生型　□自然発症□組換え体 | □♂□♀ |  | □SPF　□クリーン　□コンベンショナル | □購入（　　　　　　　　　　）□譲渡（　　　　　　　　　　）□その他（　　　　　　　　　） |
| 研究計画と方法 | 研究概要 （研究計画と方法について、その概要を記入する。） |
| 実験方法 （実験手順、動物に加える処置、使用動物数の根拠、処置後の動物のケア・実験終了時期の判定基準等について具体的に記入し、「想定される苦痛のカテゴリー」や「動物の苦痛軽減・排除方法」等と整合性をもたせる。） |
| 安全管理上の規制対象実験 | □ 該当なし□ 該当あり→右の該当項目すべてを■ | □　遺伝子組換え動物使用実験　　区分: 　□ P1A 　□ P2A遺伝子組み換え生物等に関する委員会承認番号：（　　　　　　　　　　　　　　） |
| □　化学発癌・重金属実験 |
| 動物実験を必要とする理由 | □　代替手段がない　□　代替手段の精度が不十分 □　その他（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　） |
| 環境汚染や排気等に注意が必要な物質又は微生物等の使用 | □　なし　　□　あり　→　ヒト・動物への危険性： □　なし　 □　少し危険　 □　危険物質名・微生物名：(　　　　　　　)　、投与経路・体内分布・排泄：( )不活化法：(　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　） |
| 手術の有無 | □　なし　 　　□　あり　→　手術後、およそ（　　　　）日間観察 |
| 移植の有無 | □　なし 　　　□　あり　（□　細胞や組織の移植　　□　腫瘍の移植　）→術後、約（　　　　）日間観察 |
| 倫理基準に基づく動物に与える苦痛度のカテゴリー分類 | □ A 生物個体を用いない実験あるいは細菌､原虫などを用いる実験(審査の対象外)□ B 動物に対してほとんど､あるいはまったく不快感を与えないと思われる実験□ C 動物に対して軽微なストレスあるいは痛み(短時間持続)を伴う実験□ D 避けることのできない重度のストレスや痛み(長時間持続)を伴う実験□ E 無麻酔の意識ある動物を用いて､動物が耐えることのできる最大の痛み、あるいはそれ以上の痛みを 与えるような処置【カテゴリーEに該当する場合】研究の必要性・動物に与える苦痛への対処法を詳細に記載し添付すること参考）動物実験苦痛度の基準 |
| 実験処置時の動物の苦痛軽減、排除の方法 | □　特に処置を講ずる必要はない →　□　短時間の保定・拘束　　　□　注射　　　□　その他（　　　　　　　　　　）□　麻酔薬・鎮痛薬等を使用する→ 具体的薬剤名・投与量・経路：（　　　　　　 ）□　科学上の目的を損なわない苦痛軽減方法は存在せず、処置できない。 □　その他 （具体的に記入: ） |
| 処置後の動物のケア (苦痛の軽減、保温、感染予防等) の方法 | □ 実施しない　□ 実施する（以下の該当項目をすべて■）　　□頻回の観察　　□保温　　□補液　　□特別食の給餌　　□栄養剤の投与　　□鎮痛剤の投与　　　　□抗生物質の投与　□その他（具体的に記入：　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）  |
| 人道的エンドポイント(実験終了時期)の判定基準 | □ 該当なし□ 動物が耐えがたい痛みを伴う場合､人道的エンドポイント(実験終了時期) を考慮する(以下の該当項目をすべて■)　　□ 摂食障害　□ 数日間で20%以上の急激な体重減少　□ 腫瘍重量が体重の10%以上　□ 反応欠如　　　□ 呼吸促迫　□ 強い自損行為　□ その他（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　） |
| 安楽死の方法 | □ 麻酔薬の過剰投与（麻酔薬名：　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 　　　　　　　　）□ 頸椎脱臼　□ 炭酸ガス吸入　□ 麻酔下灌流固定　□ 麻酔下全採血又は放血　□ 断頭□ その他（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）  |
| 動物死体の処理方法 | □ 専門業者委託（焼却）□ その他 （具体的に記入: ） |
|
| その他必要または参考事項 | （過去の動物実験計画書承認実績、学内の関連委員会への申請状況、飼養保管施設・実験室の承認状況などを記入する。) |
|  |
| 委員会記入欄 | 審査終了: 　　 年 　 月 　 日　　　　修正意見等 |
| 審査結果 　□　本実験計画は、日本女子大学における動物実験規程等に適合する。　　　　　　　（条件等　□　遺伝子組換え実験安全委員会の承認後、実験を開始すること。）　　　　 □　本実験計画は、日本女子大学における動物実験規程等に適合しない。日本女子大学動物実験委員会　　 |
| 学長承認欄 | 承認日: 　　 年 　 月 　 日　　　　本実験計画を承認します。　日　本　女　子　大　学　長　　　 |
| 承認番号 | 第　　　　　　　　　　　　　　　　号 |

|  |  |
| --- | --- |
| 学長 | 動物実験委員会 |
|  |  |